

3D とバーチャルリアリティの最近の展開

日 時：2010 年 4 月 5 日（月）13:20 ～ 16:40

会 場：キャンパスイノベーションセンター 国際会議室

（JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車 徒歩 1 分、都営三田線・浅草線三田駅下車 徒歩 5 分）

主 催：横幹技術協議会、横幹連合

参 加 費：**横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、学生は無料。**

【上記以外】一般 5,000 円

参加申込：【事前登録】オンライン申込 http://www.trasti.jp/cgi-bin/forum_25_1.cgi?step=1

又は、下記の参加申込書にご記入のうえ、fax、電子メールにてお申し込みください。
（氏名、所属、連絡先 Email、TEL、参加費の支払い方法等をご明記ください。）

【当日申込】当日直接、受付へお越しください。（ただし定員に達し次第、受付終了となります）

【企画趣旨】

3D（三次元）映画が空前のヒットとなり、3Dテレビが実用化されつつある。3Dの究極の姿であるバーチャルリアリティ（VR）に対する期待も、全米科学財団（NSF）が発表した21世紀の人類の生活の向上に大きな貢献をもたらす「今世紀中に達成すべき14の重点技術目標」の一つに選ばれるなど高まってきている。この3DやVRの最近の動向を紹介し、パネルディスカッションでは、3Dとその先にあるVRが、これからの産業となりうるか、そのための要件は、など3DとVRの産業論を展開する。

【プログラム】

総合司会 舘 暁（横幹連合副会長）（敬称略）

13:20-13:30 開会あいさつ

桑原 洋（横幹技術協議会 会長）

13:30-15:00 ◆ 第1部 3D と VR の現状を探る
「3D エクスペリエンスへのアプローチ」
「ソニーの3D映像への取り組み」
「ドーム型3D映像提示への取り組み」

河合 隆史（早稲田大学）
大場 省介（ソニーPCL）
澤田 一哉（パナソニック電工）

（15:40-15:10 休憩）

15:10-16:10 ◆ 第2部 3D と VR は日本のこれからの成長産業
となるか
「バーチャルリアリティとデジタルコンテンツ」
「実世界を指向したバーチャルリアリティの展開」

廣瀬 通孝（東京大学）
舘 暁（慶應義塾大学）

16:10-16:40 ◆ 第3部 総合討論

16:40-16:45 閉会の挨拶

木村 英紀（横幹連合 会長）

3D とバーチャルリアリティの最近の展開

2010 年 4 月 5 日 (月) 13:20 ~ 16:40 (キャンパスイノベーションセンター 国際会議室)

【講演要旨】

(敬称略)

第 1 部

～3D と VR の現状を探る～

講演 1

「3D の最近の展開」

◆ 河合 隆史(早稲田大学)

ごく近い将来に立体映像 (3D) の普及が期待されている現在、3D コンテンツへの関心が目に見えて高まっている。しかしながら、3D コンテンツの特性、とりわけ観察者の認知や体験 (エクスペリエンス) という側面は、未だ明らかになっていない。本講演では、3D コンテンツを取り巻く近年の国内外の動向と、そのユーザエクスペリエンスに関する筆者らの見解や取り組みについて紹介する。

講演 2

「ソニーの 3D 映像への取り組み」

◆ 大場 省介(ソニーPCL)

従来は一過性のブームで終わっていた 3D 映像。
しかしアメリカ発の 3D コンテンツが起爆剤となり、家庭用の 3D テレビが大規模に発売されるまでに至った。
この経過と今後を、ソニーの 3D 戦略をベースに報告する。

講演 3

「ドーム型 3D 映像提示への取り組み」

◆ 澤田 一哉(パナソニック電工)

ドーム型スクリーンを用いた 3D 映像提示システムについて概説する。本システムは、3D 映像提示に加えて広視野映像提示が可能であるため、平面ディスプレイを用いた 3D システムと比較して、より高い臨場感を提供することができる。具体事例として、医用応用を目的として開発した開口径 60cm の内視鏡外科手術向け小型システムと、景観設計への応用を主目的として開発した開口径 8.5m の大型システムを中心に紹介する。

第 2 部

～3D と VR は日本のこれからの成長産業となるか～

講演 4

「バーチャルリアリティとデジタルコンテンツ」

◆ 廣瀬 通孝(東京大学)

ここ数年来の VR 技術の成熟化は著しく、技術的可能性を論じるだけの萌芽的状况から、それによって表現される世界の内容すなわちコンテンツが重要な状況へと推移している。コンテンツは今後のわが国の産業の構造変化の重要なキーワードである一方、文化芸術等、これまでの産業の論理とはやや異なる論理構造を持つ領域と関係があるなど、十分な考察が必要である。本講演では、超臨場感通信、デジタルミュージアムなど、最近のプロジェクトの事例を交えつつ、VR をコンテンツの観点から議論したい。

講演 5

「実世界を指向したバーチャルリアリティの展開」

◆ 舘 暲(慶應義塾大学)

近年の VR は、実世界を指向している。その好例が、実世界にコンピュータで得られた情報世界を重畳的に加えることで、実世界を増強するオーグメンティド・リアリティ (AR: Augmented Reality)、すなわち拡張現実である。また、この場に居ながら、世界の各地の別の場所にいるような臨場感を得ながら行動できる、テレグジスタンス (telexistence) が着実に進展している。臨場感に加え、その人の存在感をも伝達する研究も始められている。本講演では、AR とテレグジスタンスといった実世界での VR の現状について紹介し、その将来の可能性を論じたい。

<第25回横幹技術フォーラム 申込書>

1.お名前： _____ 2.ご所属： _____

3.電子メール： _____ 4.TEL： _____

5.参加費区分：※該当するものに○印をつけてください。

- (a) 横幹技術協議会会員企業の関係者 (b) 横幹連合会員学会の会員 (学会名： _____ 学会)
(c) 学生 (d) その他

6. 上記5で「(d) その他」に該当する方のみ、参加費についてご記入ください：

- a) 請求書送付が**必要**な場合：【郵送先・ご請求書の宛名書き】〒 _____
b) 請求書送付が**不要**な場合：銀行振込予定 ____月 ____日頃 振込人名義 _____

【お申し込み先】横幹技術協議会 事務局 フォーラム係 tel & fax : 03-3814-4130 email : office@trafst.jp
【お振込先口座】三菱東京UFJ銀行 本郷支店 普通口座 4524554 横幹技術協議会 (オウカンギジュツキョウギカイ)
※銀行振込手数料はお振込主様にご負担ください。

交通案内

キャンパス・イノベーションセンター

住所：東京都港区芝浦3-3-6

最寄駅：JR山手線・京浜東北線 田町駅(徒歩1分)、都営三田線・浅草線三田駅(徒歩5分)

